【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】平成17年10月6日(2005.10.6)

【公開番号】特開2004-27840(P2004-27840A)
【公開日】平成16年1月29日(2004.1.29)
【年通号数】公開・登録公報2004-004
【出願番号】特願2003-313790(P2003-313790)
【国際特許分類第７版】
　Ｅ０４Ｃ　3/06
// Ｅ０４Ｂ　1/24
【ＦＩ】
　Ｅ０４Ｃ　3/06
　Ｅ０４Ｂ　1/24　　Ｌ

【手続補正書】
【提出日】平成17年8月11日(2005.8.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　フランジおよびウェブからなる鉄骨梁において、梁端部に、前記フランジの両側に増設プレートを一体に固設してフランジ幅を増大させた増幅部分を備えたことを特徴とする鉄骨梁構造。
【請求項２】
　前記増設プレートは、互いに平行な短辺及び長辺と、前記短辺及び前記長辺に垂直な垂直辺と、前記短辺及び前記長辺に対して傾斜した傾斜辺とからなる略台形状に形成され、前記長辺が前記フランジの側辺に溶接され、前記垂直辺がフランジ端と一直線になっていることを特徴とする請求項１記載の鉄骨梁構造。
【請求項３】
　前記傾斜辺は、内側に湾曲されていることを特徴とする請求項２記載の鉄骨梁構造。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
　かかる目的を達成するために、本発明の鉄骨梁構造は、フランジおよびウェブからなる鉄骨梁において、梁端部に、前記フランジの両側に増設プレートを一体に固設してフランジ幅を増大させた増幅部分を備えて構成する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
　また、請求項２に示す本発明の鉄骨梁構造は、前記増設プレートは、互いに平行な短辺

及び長辺と、前記短辺及び前記長辺に垂直な垂直辺と、前記短辺及び前記長辺に対して傾斜した傾斜辺とからなる略台形状に形成され、前記長辺が前記フランジの側辺に溶接され、前記垂直辺がフランジ端と一直線になっていることを特徴とする。

また、請求項３に示す本発明の鉄骨梁構造は、前記傾斜辺が、内側に湾曲されていることを特徴とする。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】

本発明によれば、フランジおよびウェブからなる鉄骨梁において、梁端部にフランジ幅を増大する増幅部分を備えて構成したので、梁端のフランジ幅の増幅部分よりも梁中央側に寄った部分を先行して降伏させることができ、耐震性等のエネルギ吸収能を格段に向上することができる。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】

以上説明したように、本発明によれば、フランジおよびウェブからなる鉄骨梁において、梁端部にフランジ幅を増大する増幅部分を備えて構成したので、梁端のフランジ幅の増幅部分よりも梁中央側に寄った部分を先行して降伏させることができ、耐震性等のエネルギ吸収能を格段に向上することができる。

【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】削除
【補正の内容】